

令和元年 9 月

普及活動報告

京都丹波就農サポート講座第 8 回

～現地経営研修を開催～

(全域：3 日)



指導農業士の賀茂なすを見学



青年農業士がみず菜栽培の説明

今回は管内の賀茂なす、施設トマト及びみず菜等の生産現場を訪問し、農業士をはじめ先進農家から、安定した収益を上げるための栽培品目の選定やコストダウンの大切さについて説明を受けました。

受講生からは「コスト意識・創意工夫の大切さを学んだ」「経験不足を補うため、先輩農家との人脈をつくっていきたい」等の感想が聞かれました。

普及センターは、残り 2 回の講座を通じて実践的な農業の基礎技術の習得を支援していきます。

場 所 亀岡市大井町・河原林町、
南丹市八木町

出席者数 16 名

受講生は21～53歳（平均年齢37歳）。南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障がい者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

～次年年作に向けて～ コギク栽培研修会 を開催

(亀岡市・南丹市：3日)



次年年作の準備について説明

次年年作に向けて、普及センターから、親株を選ぶポイントや刈り込みの方法、苗床への仮植えと管理、ほ場準備等の作業手順、病虫害の対策など、栽培上注意すべき点について説明しました。

生産者からは、遅霜対策、品種特性や害虫対策についての質問が出るなど、栽培に取り組む意気込みが感じられました。普及センターは、コギクの良品生産に向けてJAとともに助言・指導を行います。



栽培管理について意見交換

場 所 JA京都園部黒田支店
参加者数 15名

コギク栽培面積（生産者数）：亀岡支部 31a（8名）、園部支部26a（10名）

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

「京都丹波地域農福連携推進協議会」

鳥獣害対策について研修を実施

(全域：5日)



熱心にビデオを視聴

障がい者就労支援施設からの要望を受け、主な野生動物（シカ、イノシシ、サル）の生態と対策に関するビデオを活用して研修を行いました。

参加者から「柵で囲ったほ場の中に犬を放し飼いにしてはどうか」といった具体的な質問もあり、関心の高さがうかがえました。

普及センターは、今後も障がい者就労支援施設における農業の取組みを支援していきます。



質問に対応する普及員

場 所 園部総合庁舎
出席者数 22名

普及センターは、黒大豆エダマメ等の栽培に取り組む障がい者就労支援事業所（3施設）を定期的に支援

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告



聖護院だいこんほ場の状況（8月末播種）



発芽間もない聖護院かぶ（9月上旬播種）

聖護院かぶ・だいこんの安定生産に向けて

（亀岡市：12日）

8月末から播種が始まった聖護院かぶ、聖護院だいこんのほ場を巡回し、昨年多発した病害虫を中心に、今年の発生状況や防除作業のポイントなどをお伝えしました。

生産者からは、「現在発生している病害虫に効果の高い農薬を教えてください」等の要望があり、栽培に取り組む意気込みが感じられました。普及センターは、今後もJAとともにほ場を巡回して助言を行います。

場 所 亀岡市篠町
出席者数 21名

亀岡市篠町 聖護院かぶ・だいこん生産者：27名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

良質な小豆種子の安定生産に向けて (亀岡市・南丹市：17～19日)



ウイルス株等の抜き取り作業

来年以降、農家へ種子として配付される小豆を生産する採種ほ場をすべて巡回し、生育状況を確認しました。普及指導員がウイルス株や変異株などの診断方法について説明した後、生産者やJA職員とウイルス株等の抜き取りを行うとともに、病虫害防除など今後の栽培管理について指導しました。

長雨のため種まきが遅れ気味のほ場もありましたが、生育は概ね順調でした。採種農家も「株がよくできており、莢もよく付いている気がする」と話されていました。

今後、普及センターは雑草防除や栽培管理について指導を行い、ほ場の状況把握に努め、良質な小豆種子の安定生産を支援します。

場 所	9/17	亀岡市河原林町
	9/18	南丹市園部町若森・黒田
	9/19	南丹市園部町大西
出席者数	27名	

令和元年度 小豆採種生産者4団体 ほ場面積5.5ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

豚コレラ発生に備え対策本部の班長が 主要養豚場の現地調査を実施

(19日)



設置前に必要な作業を協議・確認



設置予定地の状況

今回は、飼養頭数が多い3農場を巡回しました。南丹局には府庁から動員される職員が円滑に作業できるための受入体制づくりが求められており、中でも動員職員が休憩や着脱衣する前線基地の設置運営が重要となります。そこで、基地の設置場所や必要な作業を確認しました。

前月末に行われた班長会議で、ある程度概要を把握したつもりでしたが、改めて現地を見てみると、足場が良くないなど様々な課題が明らかになりました。有事には普及センター職員もほぼ全員が動員されることとなっており、緊張感を保ちつつ備えています。

場 所 南丹市日吉町胡麻、
京丹波町蒲生・質美
出席者数 10名

南丹管内の豚飼養頭数：約8,800頭（府内飼養頭数の大半）

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

～もみ殻堆肥づくりにチャレンジ～ 京都丹波就農サポート講座第9回を開催 (全域：24日)



土壌肥料の講義

講義では土づくりの考え方や堆肥づくりの手順、施肥設計の仕方及びpH、ECなどの土壌診断項目の数値の読み方等を説明しました。その後、堆肥づくりの実習を行い、コンパネで組んだ枠に、もみ殻、米ぬか、鶏糞などの材料に水分を加えながら積み込みました。

受講生からは「土づくりの必要性を感じた」「化学肥料を減らすため自家製堆肥づくりに挑戦したい」などの感想が聞かれました。

今後、良質な堆肥づくりのために3回の繰り返し作業を行い、来年2月下旬には完成した堆肥を受講生に分配し、野菜作り等に活用していただく予定です。



堆肥づくり実習

場 所 氷室の郷（南丹市八木町）
出席者数 16名

受講生は21～53歳（平均年齢37歳）。南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障がい者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告



鍬の種類と使い方を説明



畝立て実習

～南丹地域における京都式農福連携の取組み～後期「チャレンジ・アグリ認証(基礎課程)」第1回が開講

(亀岡市・南丹市：25日)

障がい者就労支援施設に通所する障がい者が農業を学ぶ場として、障害者支援課が主宰する「チャレンジ・アグリ認証事業」の後期課程が始まりました。

後期は、10名の受講生が「コマツナ」栽培にチャレンジします。初回は、は種前の作業として畝立ての実習を行いました。講師(農家)から道具の使い方の説明を受けた後、各自約1mの畝立てを行い、それぞれの名札を立てました。

後期課程は11月まで全6回の予定で、次回と次々回に種まきを行います。普及センターは引き続き、農福連携の取組みを支援していきます。

場 所 南丹市園部町内林
出席者数 19名

前期(ミニトマト栽培：5月11日～7月26日(全5回))は、7名が卒業

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9 月

普及活動報告

～若手農業者が自身の農業を語る～
美山町で「第3回平屋ウォーク」開催
(南丹市：28日)



4 kmを2時間で歩きました

美山町平屋振興会は、地域の魅力をPRするため「平屋ウォーク」を毎年開催しており、今回は地域外から20名の参加者がありました。その中で、地域の農業を知ってもらうため、若手農業者が語り部として登場し、就農からこれまでの経過や生業としての農業の喜びや苦勞を話されました。

参加者は話に耳を傾けつつ新米を味わい、「お米がおいしい」「農業の苦勞が改めてわかった」「頑張っていて欲しい」との感想を語りあっていました。

場 所 南丹市美山町
出席者数 35名



若手農業者が米づくりの苦勞等を伝える

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 9月

普及活動報告



調査株 (紫ずきん3号)



紫ずきん2号の収穫



脱莢・出荷調整

～紫ずきんの収穫適期を予測～ 情報提供で高品質化を支援

(南丹市・京丹波町：7/9～9/30日)

紫ずきん（京夏ずきん含む）は、収穫2週間前以降の莢肥大量が1日あたり0.34～0.37mmとなることがわかっています。この指標を基に品種ごとの収穫時期を予測したところ、「京夏ずきん」は昨年より1～2日早い、「紫ずきん2号」は約3日遅く、「紫ずきん3号」は平年並み、「新丹波黒」はやや早いことが分かりました。

これらの調査結果を生産者に情報提供することで、多くの人手を要する収穫作業の準備に役立ててもらっています。

昨年と同調査を実施し、特に、収穫作業にかかる人員確保が必要である大規模生産者から事前の情報提供に対する期待が高まっています。普及センターは、今後も適期収穫による高品質化を支援していきます。

場 所 京丹波町実勢
南丹市園部町

令和元年度 南丹管内「京夏ずきん・紫ずきん」
栽培面積 約73ha